

## 択捉島・色丹島 訪問記（平成16年6月10日～14日）

岩瀬 新吾（黒部市／2004年度（社）日本青年会議所富山ブロック協議会）

### ●はじめに

私は、北方四島（色丹・択捉島）に訪問した。

北方四島ロシア島民と民間レベルで交流を行うことで、ロシア島民の日本に対する偏見を取り除き返還に寄与する、ということを目的としている。

今回の訪問団は総勢約60名で、兵庫県民会議を中心とした近畿ブロック40名が中心であった。

### ●研修

前日に丸一日かけて研修を行った。「四島へ行く」という言葉を「ロシアに行く」と言う方が多いので（北方四島はあくまでも日本固有の領土です）、その点を含めての領土問題の経緯、島での対話内容やレクリエーション内容を確認するためにニホロ（北海道立北方四島交流センター）にて勉強会を行った。

### ●色丹島上陸

6月11日に色丹島に上陸。日差しはかなり照りつけているが湿度が低いのでからっとしており、日本の梅雨とは全く違った気候であった。

色丹にて墓参、昼食を食べて保育園を訪問。前もって「日本人がやってくるぞ！」との情報が入っていたのか、園児は皆かなり気合が入ったおめかしをしていたように感じた。

また、2年前に黒部の地にて四島青少年を受入した際に、自宅にホームステイした色丹の中学校の先生（ディアーナ、27歳、女性）に会おうとしたが、大陸へ移住してしまったとのこと。

### ●択捉島上陸

択捉、色丹には企業が少なく、ギドロストイという魚類加工の大工場がこの島を支えている。雇用状況も良いとは言えず、かなりの島民が職に溢れているとのことだった。また牛が至るところにいるのが驚きで、まさに犬猫状態であった。

また、目抜き通りの商店街では、雑貨店が多く、基本的に食料品は安かった。お菓子と雑貨が日本と同じ物価であった。

### ●ホームビジット・ウォッカ一気飲み最終決戦！

北方領土上陸の最終日に、ホームビジットを行った。8名くらいの束になって乗り込んだのだが、先方はビザなし訪問団を何度もビジットさせてきた手慣れた家庭だった。（もちろん親日家！）

豪華な食事のてんこ盛りで、残し率300%くらいのボリュームだった。

そこのホスト、パーヴェル氏（愛称パーニャ、36歳同年、元海兵隊、極真経験者）と意気投合、いつの間にかウォッカ一気飲み勝負となった。

小ぶりのグラスに40度のウォッカを注ぎ「〇〇に乾杯！」と言ってグイと飲み干すのだが、これが彼らの正式な歓迎のしきたり。

「注がれたウォッカは断るな、気合を入れろ、気合を！」と私は何故か頭の中でアニマル浜口に激を受け、すべての盃を一気飲み。3杯目位から差しつ差されつ、の勝負となっていく。もちろんパーニャも私同様プーチン大統領から激励されていたに違いなかった。ちなみに乾杯の言葉は何

でもよく、「ご飯が美味しいから乾杯」「平和に乾杯」「友情に乾杯」「ご家族に乾杯」その後し  
まいには「（ピアノ演奏をしてくれた）娘さんの演奏に乾杯」「チョコケーキに乾杯」「36歳同  
い年に乾杯」「大山増達に乾杯」とやっていた。

### ●環境

経済的にロシア本国と比べると劣っているので、インフラ整備はもちろんされてはいなかった。  
近くに景色の良いところがあったが、その手前がゴミの山。日常生活のゴミが散乱している（右上  
の写真は色丹島のゴミ捨て場）。その近くに汚れた小川もあった。

また、択捉島では日本支援の発電機（発電機中央に日の丸あり）が中学校の横に置かれていた。  
校長先生は説明の際、「結構大活躍してもらっている」と発電機を褒めていたが、どう見ても新品  
同様に、使っているようには見えなかった。

後で島民に尋ねると「実はランニングコストがかかるし、修理も日本製の機材がないとできない  
ので、あまり使ってない」とのこと。本当の支援とは一体何なのか、を考えさせられた光景の一つ。

### ●領土問題の討論会で

ビザなし訪問団は必ず民間レベルで討論会をするのであるが、ロシア側はもう慣れっこになっ  
ている感じであった。中学校の講義室にて行った討論会では、向こうは択捉島地区の議長で百戦錬磨  
の猛者（迫力ある典型的なロシア人女性）で、討論慣れをしていた。

こちらが本質（領土問題）を切り出すと「私とこの場で喧嘩したいのですか！」とすごい剣幕で  
マイクジャック（マイクパフォーマンス）し、こちらに付け入る隙を与えないでいた。

### ●最後に

討論会以外にも一般島民と生きた交流を行ってきた。

特に四島島民に関しては、島に囲まれているせいか、おおらかで気さくな人が多いと思いました。



討論会会場